

依頼があり出かけてきました 田んぼの生き物観察

7月2日(日)。虫捕りと水遊びがセットになったワクワク感なのでしょうか、田んぼの中は大人も子どもも実に楽しそうでした。

講師依頼が本法人に届いたのは、わずか10日ほど前。急な話でしたので、田んぼの経験者ということで私に連絡があり、“虫仲間”を誘って3人で出かけてきました。

場所は、循環型無農薬有機栽培の先進地として知られる小川町下里。そこで行われている「無農薬で米作りから酒造りを楽しむ会」というプログラムの2回目「草取りと生き物観察」という行事でした。家族連れが多く在籍者は80人。この日は50人程が集まっていました。

旧下里分校で開会。代表の金子美登さんから生物多様性の話があり、参加者は期待をふくらませて田んぼに向かいました。

予定した活動は、参加者が自分の目で見つけて採集し、持ち寄り、わかち合う。これを2回行い、その都度、我々がアドバイスと解説をする。行事担当者の希望はカブトエビとホウネンエビは見てほしい。これを受けて、この2種を大人の1回目の採集ノルマにし、2回目は「カエル」を捕まえてくださいとお願いして始めました。

田んぼは2枚、3反以上あります。畦を進む親子、すぐに田んぼに入るお父さん。思いはいろいろです。田植えで一度中に入っているせいでしょう、ものおじせずに、それでも慎重に苗間を探して…「あ！いたいた！」「捕れた！」。嬉しそうな声と笑顔が弾けます。一方、なかなか苦労している大人の姿も。2回目には水路に全身で浸かりご満悦のちびっ子も現れ、自由な穏やかな雰囲気になっ



ていました。

わかち合いは4班に分かれて、捕まえた生き物の正体を確認するべく、みんなでのぞき込みました。

まだ成虫が少ない時期です。集まったのは

ヤゴやオタマジャクシ、ホタルかミズマシ、ゲンゴロウの仲間といった同定が難しい幼虫ばかり。とはいえ初めて見る姿と説明に関心の眼差しが注がれます。人気があったのはミズカマキリの成虫です。みなさんの被写体になっていました。下見の時、3種類いたカエルは、人が多くて驚いて逃げたのでしょうか、この日は2種類だけでした。

帰路は、自分の食べる米は自分で作りたいという参加者の質問や熱い思いに応えながら戻りました。

なお、帰宅後、近くのスーパーでこの無農薬米を使った地酒を発見、試飲を…と思ったのですが、年金暮らしの身には手が出ないお値段でした。以上、報告お終い。写真は主催者から提供いただきました。
(運営委員・清水)

